

大阪城天守閣前広場

1583 年の築城以来、天守閣前広場には軍の掩蔽壕から豪華な邸宅まで、いろいろな建物が建てられた。

東側のヨーロッパ調の大きな建物は大日本帝国陸軍第四師団司令部の庁舎として 1931 年に建築された。すべての窓がステンドグラスで飾られた煉瓦造りの外装とアールデコ調の内装は、天守閣本体よりも建設費用がかかった。この建物は第二次世界大戦後はアメリカ駐留軍、その後は大阪市警察及び大阪府警察によって使用された。1960 年から 2001 年の閉館までは大阪市博物館として利用された。もう一つの戦時中からの建物で、広場の南の掩蔽壕にあった中部軍司令部防空作戦室は 1960 年代に解体された。

広場の反対側にはかつて、江戸時代の華麗な邸宅、紀州御殿があった。1885 年に帝国陸軍は邸宅を解体し、和歌山城内から大阪城内に移築した。天皇陛下の御行幸時にはご宿泊場所としても利用された。1931 年に新しい天守閣と陸軍第四師団司令部が建設されたとき、紀州御殿に伝統的な日本庭園が造られた。1947 年に邸宅は焼失したが、庭園は今も残っている。

1898 年、城がまだ帝国陸軍の管理下にあったとき、豊臣秀吉の石碑（1537-1598）が広場に立てられた。天下統一を成し遂げ、戦国の世を終わらせたことで知られる秀吉は 16 世紀末に大阪城を建設したが、1615 年の大阪夏の陣で秀吉が建てた城は破壊された。秀吉を記念する石碑の横には、かつて秀吉が数百年も前に植えたと言われるものと同じ樟の木が植えられた。